

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「あおぞら・新グローバル分散ファンド（限定追加型）2014-08 “愛称 ぜんぞう”」は、去る12月10日に信託終了日を迎えましたので、法令に基づいて運用状況をまとめてご報告申し上げます。これまでの皆さまのご愛顧に対しまして、厚く御礼申し上げますとともに、今後とも弊社ファンドをご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。

■本ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2018年12月10日まで
運用方針	日本を含む世界の株式および債券に広く分散投資を行うことで、インカムゲインの獲得と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。
主要投資対象	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 ・アイルランド籍外国証券投資法人（円建て） ・ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド ・ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー エマージング・マーケット・バリュート・ファンド ・ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド
運用方法	①主として、日本を含む世界の株式（新興国の株式を含みます。）（以下「グローバル株式」といいます。）を主要投資対象とする別に定める投資信託証券および日本を含む世界の債券（以下「グローバル債券」といいます。）を主要投資対象とする別に定める投資信託証券に投資を行います。 ②株式の実質的な組入比率を計画的に段階的に引上げることで、買付時期の分散を図ります。 ③投資信託証券の組入比率は原則として高位を保ちます。なお、投資対象資産毎の投資信託証券への配分比率は下記の通りとすることを基本とします。 ・グローバル株式を投資対象とする投資信託証券への配分比率の合計：設定当初は純資産総額の概ね5%程度から開始し、1年後に純資産総額の概ね60%程度とします。 ・グローバル債券を投資対象とする投資信託証券への配分比率の合計：設定当初は純資産総額の概ね95%程度から開始し、1年後に純資産総額の概ね40%程度とします。 ただし、基準価額（支払済の分配金（税引前）累計額は加算しません。）が一定水準（11,500円）以上となった場合には、資金動向、市況動向等を勘案した一定期間内でグローバル株式を投資対象とする投資信託証券への配分比率を引き下げ、グローバル債券を投資対象とする投資信託証券ならびに短期金融商品等に投資する安定運用に切り替えていくことを基本とします。
分配方針	分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額の範囲とし、収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額等の場合は分配を行わない場合があります。なお、中長期的な信託財産の成長に資するため、収益分配金は少額に抑えることを基本とします。

あおぞら・新グローバル分散ファンド （限定追加型）2014-08

愛称 **ぜんぞう**

償還運用報告書（全体版）

第5期

償還日
第5期（最終期） 2018年12月10日

あおぞら投信株式会社

AOZORA

東京都千代田区麹町6-1-1

■ホームページアドレス

<http://www.aozora-im.co.jp/>

■お問い合わせ先

<お問い合わせ窓口>

03-6752-1051

受付時間：

営業日の午前9時から
午後5時まで

*お取引内容等につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

■設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	税金 分配金	騰落 中率	投資信託 証券比率	純資産 総額
(設定日) (2014年8月5日)	10,000	—	—	—	1,849
1期 (2014年12月10日)	10,237	0	2.4	99.7	5,830
2期 (2015年12月10日)	9,908	0	△3.2	99.2	4,484
3期 (2016年12月12日)	10,239	0	3.3	99.2	4,012
4期 (2017年12月11日)	11,171	0	9.1	99.9	2,540
(償還時) 5期 (2018年12月10日)	(償還価額) 11,313.32	—	1.3	—	504

(注1) 設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

(注2) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注3) 本ファンドは複数の投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。本ファンドは、株式の実質的な組入比率を計画的に段階的に引き上げる(漸増)ことで買付時期の分散を図り、また、基準価額が一定水準以上となった場合には、一定期間内で株式の実質的な組入比率を引き下げ、債券ならびに短期金融商品等に投資する安定運用に切り替えていくことを基本方針としています。このため、本ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

■当期中の基準価額等の推移

年月日	基準 価額	騰落 率	投資 証券 信託 比率
(期首) 2017年12月11日	11,171	—	99.9
12月末	11,273	0.9	99.1
2018年 1月末	11,452	2.5	99.8
2月末	11,413	2.2	96.7
3月末	11,420	2.2	97.6
4月末	11,375	1.8	100.7
5月末	11,413	2.2	98.4
6月末	11,397	2.0	99.2
7月末	11,360	1.7	99.6
8月末	11,375	1.8	95.7
9月末	11,309	1.2	98.6
10月末	11,327	1.4	97.7
11月末	11,317	1.3	—
(償還時) 2018年12月10日	(償還価額) 11,313.32	1.3	—

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 本ファンドは複数の投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。本ファンドは、株式の実質的な組入比率を計画的に段階的に引き上げる(漸増)ことで買付時期の分散を図り、また、基準価額が一定水準以上となった場合には、一定期間内で株式の実質的な組入比率を引き下げ、債券ならびに短期金融商品等に投資する安定運用に切り替えていくことを基本方針としています。このため、本ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

■運用経過 (2014年8月5日～2018年12月10日)

設定来の基準価額等の推移



設定日：10,000円

期末 (償還日)：11,313円32銭 (既払分配金0円)

騰落率：13.1% (分配金再投資ベース)

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

* 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、当期末において11,313.32円となり、当期のリターンは1.3% (信託報酬控除後) の上昇となりました。

法人税減税を含む米税制改革法案が成立したことや、堅調な米国企業業績と米経済指標を背景に先進国株式市場が上昇したことから、基準価額は2018年1月下旬に11,500円を上回り、安定的な債券運用に切り替わりました。その後、欧米を中心に先進国債券利回りが上昇したことが基準価額の下落要因となりましたが、安定的な債券運用に切り替わったことで、2018年2～3月と10～11月の2回にわたる大幅な株式市場の調整局面を回避することができました。

投資環境

第1期 (2014年8月5日～2014年12月10日)

当期の先進国株式は上昇しました。2014年8月5日の当ファンド設定日から9月初にかけて、良好な米国経済指標やECB (欧州中央銀行) の追加金融緩和期待などがプラス材料となりましたが、世界景気の減速懸念や中東やウクライナでの地政学リスク (国際緊張) の高まり、エボラ出血熱感染拡大懸念などをマイナス材料として、10月半ばにかけて一時的に大きく下落しました。その後は、日銀の予想外の追加金融緩和実施やECBによる追加金融緩和期待、原油価格の下落などがプラス材料となり、先進国株式は反発上昇、特に米国株式市場は最高値更新が続いています。

一方、中国およびロシアの景況感鈍化や資源価格下落に加えて、香港での民主化デモやブラジル大統領選挙など、マイナス要因が重なったことから、新興国株式は下落しました。

先進国債券は、FRB (米連邦準備制度理事会) による早期利上げ懸念から下落 (利回りは上昇) する局面もありましたが、世界景気の減速懸念や地政学リスクの高まり、日銀による追加金融緩和実施やECBの

追加金融緩和期待、原油価格の下落を背景として、上昇（利回りは低下）しました。

為替市場では、堅調な米国経済を背景としてF R Bの金融引締め観測が燦る一方、日銀が意表を突く追加金融緩和を実施したことを受けて、円安傾向が加速しました。

第2期（2014年12月11日～2015年12月10日）

当期の先進国株式は下落しました。当期首から年央にかけて、E C Bの追加金融緩和など、世界的に金融緩和的な環境から上昇基調になりましたが、F R Bの利上げ開始時期に対する不透明感から次第に新興国市場が軟調となり、本年8月には中国人民元の切り下げをきっかけに中国景気の減速懸念が台頭したことを受けて、投資家のリスク回避姿勢が強まり、世界同時株安となりました。しかし、本年10月になると、中国人民銀行（中央銀行）が追加金融緩和を実施したことや、E C Bが年内追加緩和を示唆したことなどから大きく反発しました。

新興国株式は、資源価格の下落基調に加えて、米国利上げに伴う新興国から米国への資金逃避に対する警戒感から、本年4月を境に下落基調になりました。本年8月に中国景気の減速懸念を嫌気して下落が加速したあと、中国人民銀行が追加金融緩和を実施したことで反発しましたが、上昇幅は限定的でした。

先進国債券は、原油相場の急落やE C Bの追加金融緩和を受けて、期首から債券利回りの低下基調（債券価格は上昇）が続いたあと、本年5月にユーロ圏経済のデフレ懸念後退をきっかけに、過去最低水準を更新していたドイツ国債を始めとして利回りが上昇（債券価格は下落）に転じました。その後、夏場に投資家のリスク回避姿勢が強まると、F R Bの利上げ先送りやE C Bの年内追加緩和期待から債券利回りは再び低下基調（債券価格は上昇）になりましたが、当期末にかけては、F R Bの年内利上げ観測が高まったことから、利回りは上昇（債券価格は下落）しました。

為替市場では、夏場に世界同時株安になるなど、投資家のリスク回避行動の強まりから一時的にドル円為替レートで円買いが優勢となる局面もありましたが、当期末にかけては日米金融政策の方向性の違いから円安が進みました。

第3期（2015年12月11日～2016年12月12日）

当期の先進国株式は上昇しました。米国利上げが実施された後、中国人民元の切り下げや原油相場の大幅下落など、世界景気の減速懸念が台頭して投資家のリスク回避姿勢が強まる中、当期初から2016年2月半ばにかけて急落しましたが、主要国の金融当局が景気減速懸念への対処を表明したことを好感して、2016年央にかけて反発しました。2016年6月には英国の国民投票結果が予想外にE U（欧州連合）離脱派多数となったことを受けて、一時的に急落する局面もありましたが、各国政府や金融当局が政策対応を打ち出したことで急反発し、米国景気の底堅さを示す経済指標が続いたこともあり、堅調に推移しました。その後、米国年内追加利上げ観測や欧州金融システム不安、米国大統領選挙に向けた不透明感から軟調な展開になりましたが、次期米国大統領に選出されたトランプ候補が公約として掲げていた景気刺激策への期待から、当期末にかけて一段高となりました。

新興国株式も上昇しました。先進国株式同様、2016年初の中国人民元の切り下げや原油相場の大幅下落、2016年6月の英国国民投票を受けて急落する局面もありましたが、各国政府や金融当局による政策対応や原油相場の持ち直しを背景に上昇基調が続きました。ただ、アメリカ・ファースト（米国第一主義）を掲げるトランプ候補が次期米国大統領に選出されたことで、新興国市場から米国への資金回帰の動きが見られて、上昇幅が縮小しました。

先進国債券はほぼ変わらずでした。世界景気の減速懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まる中、当期末から2016年2月半ばにかけて債券利回りが大きく低下（債券価格は上昇）した後も、主要国の金融当局が緩和的政策を維持したことから債券利回りの低下基調が続きました。2016年6月に英国国民投票を受けて欧州景気の減速懸念が台頭すると、BOE（イングランド銀行）などによる金融緩和観測が強まる中、欧州債券を中心に一段と利回りが低下しました。年央以降は、一般的に市場が落ち着きを取り戻す中、米国年内追加利上げ観測の強まりなどから債券利回りが上昇基調に転じた後、次期米国大統領に選出されたトランプ候補が公約として掲げていた景気刺激策がインフレをもたらし、FRBによる利上げペースが速まるとの観測を背景として、当期末にかけて債券利回りが大きく上昇しました。

為替市場はドル円為替レートで円高となりました。世界景気の減速懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まる中、当期末から2016年2月半ばにかけてドル円為替レートでの円高が進行した後も、FRBによる早期追加利上げ観測後退に伴う日米金利差縮小観測や、6月の英国国民投票後の投資家のリスク回避姿勢の強まりを背景として、円高基調が続きました。その後は、日米の金融政策に対する思惑からボックス圏内でもみ合う展開が続きましたが、米国大統領選挙後の市場参加者のリスク資産を嗜好する姿勢の強まりに加えて、トランプ候補の景気刺激策への思惑から米金利が大きく上昇し、日米金利差拡大観測が強まったことを背景に、大きく円安が進みました。

第4期（2016年12月13日～2017年12月11日）

当期の先進国株式は上昇しました。当期前半は英国のEU離脱を巡る問題に加え、仏大統領選やオランダ下院選挙など欧州の政治リスクが嫌気される局面もありましたが、トランプ米大統領による景気刺激策への期待や良好な欧米企業業績が支えとなり、上昇基調を維持しました。2017年4月以降、シリアや北朝鮮を始めとする地政学リスクの高まりに加え、トランプ政権の政策実行能力に対する先行き不透明感や、欧米の中央銀行が量的緩和政策を縮小する姿勢を示したことで、高値警戒感に加えて金融相場の終焉を懸念した利益確定売りが優勢となったことが一時的な下落要因となる一方、堅調な企業業績と法人税減税を盛り込んだ米税制改革の実現期待を背景として、欧米の主要株価指数が過去最高値を更新するなど、当期末にかけて一段高となりました。

新興国株式市場は総じて上昇しました。欧米の量的金融緩和縮小の方向性を背景として、新興国市場から米国への資金回帰の動きに対する警戒感や利益確定売りから下落する局面もありましたが、先進国株式市場が上昇し続けたことや、原油を始めとする資源価格が堅調に推移したことから新興国株式市場は上昇基調を維持しました。

先進国債券はほぼ変わらずでした。欧米の政治リスクや地政学リスクが意識されたことが、欧米債券利回りの低下（債券価格は上昇）要因となる一方、2017年9月のFOMCにおいてバランスシート縮小開始と同時に年内の追加利上げが示されたことや、堅調な企業業績を背景に米国株式市場が過去最高値を更新していること、米税制改革が実現に向けて進展したことなどが利回りの上昇要因となりました。

為替市場はドル円為替レートで円高ドル安となりました。当期初はトランプ米大統領の景気刺激策への期待から米金利が大きく上昇し、2016年末に向けて一時118円台になるなど、ドル円為替レートでの円高ドル安が進みました。2017年初以降は、英国のEU離脱をめぐる不透明感、トランプ米大統領の政策実行能力に対する不信感、シリアや北朝鮮などの地政学リスクなどが円高要因となり、一時107円台まで円高が進む局面もありましたが、総じて堅調だった経済指標に加え、米税制改革法案に対する期待や米国の年内追加利上げ観測の高まりを背景に日米金利差が拡大したことが円安要因となりました。

第5期（2017年12月12日～2018年12月10日）

当期の先進国株式は下落しました。米国で大型法人減税を含む税制改革法案の成立によって企業業績への期待が高まったことや、期中を通して米景気の拡大基調を確認する経済指標の発表が続いたことで、米景気への楽観的な見方が広がったことが上昇要因となる一方、堅調な米景気指標を受けてFRBによる緩やかな利上げペースの継続を意識して、米長期金利が上昇したことや、英国のEU離脱交渉を巡る欧州の政局不安、トランプ米政権の通商政策を巡る米中貿易摩擦激化への警戒感がマイナス要因となりました。

新興国株式市場は下落しました。当期初は堅調な中国経済指標や原油価格が一段高となったことから上昇する局面もありましたが、米中貿易摩擦激化への警戒感に加えて、新興国通貨の急落や原油価格の下落がマイナス要因となりました。

先進国債券利回りは上昇（価格は下落）しました。当期初は、米税制改革法案成立による景気刺激効果期待からリスク選好姿勢が強まったことに加え、米景気拡大基調を確認する経済指標が続いてFRBによる利上げ観測が強まり、先進国債券利回りは上昇しました。その後、米中貿易摩擦激化への警戒感に加え、イタリアの財政赤字問題や英国のEU離脱交渉を巡る先行き不透明感、中国景気の減速懸念や株式市場が調整色を強める中、早期の米利上げ打ち止め観測が強まり、利回り上昇幅を縮小（価格は上昇）する展開となりました。

為替市場でドル円為替レートはほぼ変わらずとなりました。ムニューシン米財務長官によるドル安容認発言や、トランプ米政権の保護主義的な通商政策を巡る貿易摩擦激化への警戒感、株価急落を含めた投資家のリスク回避姿勢の高まりを背景に、3月には一時104円台まで円高が進みました。その後も、新興国通貨急落への懸念や根強い米中貿易摩擦への警戒感が引き続き円高要因となりましたが、堅調な米国経済を背景に緩やかな米利上げペースの継続が意識されたことや、ECB（欧州中央銀行）が量的緩和の年内終了を示唆したことが円安要因となり、113円台前半まで戻しました。

当該投資信託のポートフォリオ

本ファンドでは当初の運用方針通り、3つの組入れファンド（先進国株式：ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド、新興国株式：同エマージング・マーケット・バリュー・ファンド、先進国債券：同グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド）への投資を通じて日本を含む世界の株式（新興国の株式を含みます。）および債券に広く分散投資を行うことで、インカムゲインの獲得と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いました。

2014年8月5日設定時の債券と株式の組入れ比率を先進国債券95%：グローバル株式5%（内訳は先進国株式4%：新興国株式1%）でスタートした後、株式への投資比率を漸増させる“ぜんぞう”プランに従って、毎月初、グローバル株式の組入れ比率を計画的かつ段階的に引き上げました。その結果、2015年8月初には“ぜんぞう”プランが終了し、2018年1月までの期間の目標組入れ比率は、概ね先進国債券40%：グローバル株式60%（先進国株式：新興国株式の比率は5：1）を維持していました。

2018年1月23日に基準価額が一定水準（11,500円）を上回ったため、株式の実質的な組入比率を引き下げ、債券並びに短期金融商品等に投資する運用に切り替えを行いました。

組入れファンドにおける当期の運用状況は以下の通りです。

<ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド>（限定的な組入れ）

投資対象銘柄において、3つの側面（＝ディメンション、相対株価が低いこと、時価総額が下位であること、収益力が高いこと）に対する傾斜度合いを相対的に高めながら、広範に分散投資することによって、期待リターンの向上を目指しました。なお、2018年11月27日に本投資信託証券は全売却しました。

<ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー エマージング・マーケット・バリュー・ファンド>

投資対象銘柄において、3つの側面（＝ディメンション、相対株価が低いこと、時価総額が下位であること、収益力が高いこと）に対する傾斜度合いを相対的に高めながら、広範に分散投資することによって、期待リターンの向上を目指しました。

なお、2018年1月23日に基準価額が11,500円を上回った後、本投資信託証券は全売却しました。

<ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド>

投資対象銘柄において、2つの側面（＝ディメンション、期間プレミアム、クレジット・プレミアム）に着目しながら、期待リターンの最大化を目指しました。なお、2018年11月27日に本投資信託証券は全売却しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異

本ファンドは運用の目標となるベンチマークや参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金（1万口当たり、税引前）

満期償還のため該当事項はございません。

■ 1万口当たりの費用明細（2017年12月12日～2018年12月10日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	122	1.077	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率 期中の平均基準価額は11,369円です。
(投信会社)	(58)	(0.512)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(61)	(0.539)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	0	0.000	(b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$
(その他)	(0)	(0.000)	目論見書等の法定書類の作成・印刷・届出および交付に係る費用ならびにファンドの計理業務およびこれらに付随する業務に係る費用
合計	122	1.077	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

■ 売買及び取引の状況（2017年12月12日～2018年12月10日）

投資信託証券、投資証券

銘	柄	名	買		付		売		付	
			口	数	金	額	口	数	金	額
外 ア イ ル ラ ン ド 国				□	千円		□		千円	
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	グローバル・	1,496,111		1,447,592	2,524,180		2,425,609		
	ショート・フィクスト・インカム・ファンド									
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	グローバル・コア・エクイティ・ファンド	0.966		1	972,803		1,338,466		
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	エマージング・	682		761	224,801		278,009		
	マーケット・バリュア・ファンド									

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■利害関係人との取引状況等 (2017年12月12日～2018年12月10日)

(1) 利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当期中における売買委託手数料の支払いはありません。

■第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況 (2017年12月12日～2018年12月10日)

該当事項はございません。

■委託会社による自社が設定する投資信託の受益証券の自己取引状況 (2017年12月12日～2018年12月10日)

該当事項はございません。

■組入資産の明細 (2018年12月10日現在)

2018年12月10日現在、有価証券等の組入れはございません。

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ		ア		ン		ド		名		前	期	末
										□		数
(ア イ ル ラ ン ド)	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド											□
												1,028,069
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド											972,802
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー エマージング・マーケット・バリュース・ファンド											224,119
合 計												2,224,991

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年12月10日現在

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円	%
	507,717	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	507,717	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2018年12月10日) 現在

項 目	償 還 時
(A) 資 産	507,717,514円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	507,717,514
(B) 負 債	3,221,489
未 払 信 託 報 酬	3,220,098
未 払 利 息	1,391
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	504,496,025
元 本	445,930,918
償 還 差 益 金	58,565,107
(D) 受 益 権 総 口 数	445,930,918口
1万口当たり償還価額(C/D)	11,313円32銭

(注1) 期首元本額2,274,009,057円、期中追加設定元本額0.0円、期中一部解約元本額1,828,078,139円。

(注2) 1口当たり純資産額は、1.131332円です。

※本運用報告書作成時点において、本計算期間に係るファンド監査は終了していません。

■損益の状況

自2017年12月12日 至2018年12月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	4,933,094円
受 取 配 当 金	4,530,466
受 取 利 息	△ 5
そ の 他 収 益 金	439,796
支 払 利 息	△ 37,163
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	12,901,925
売 買 益	40,494,238
売 買 損	△27,592,313
(C) 信 託 報 酬 等	△11,466,252
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	6,368,767
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	51,520,984
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	675,356
(配 当 等 相 当 額)	(163,498)
(売 買 損 益 相 当 額)	(511,858)
償 還 差 益 金(D+E+F)	58,565,107

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

■投資信託財産運用総括表

信 託 期 間	投資信託契約締結日	2014年 8 月 5 日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2018年12月10日		資 産 総 額	507,717,514円
区 分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負 債 総 額	3,221,489円
受益権口数	1,849,155,443口	445,930,918口	△1,403,224,525口	純 資 産 総 額	504,496,025円
元 本 額	1,849,155,443円	445,930,918円	△1,403,224,525円	受 益 権 口 数	445,930,918口
毎計算期末の状況				1万口当たり償還金	11,313円32銭
計 算 期	元 本 額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金 額	分 配 率
第1期	5,695,248,800円	5,830,086,056円	10,237円	0円	0.0000%
第2期	4,525,787,277	4,484,143,604	9,908	0	0.0000
第3期	3,919,246,143	4,012,943,802	10,239	0	0.0000
第4期	2,274,009,057	2,540,183,370	11,171	0	0.0000

■償還金のお知らせ

1 万 口 当 た り 償 還 金 (税 込 み)

11,313円32銭

お知らせ**満期償還について**

本ファンドは、2014年8月5日に設定され、2018年1月23日に基準価額が11,500円に到達したのち、運用方針に基づき安定的な債券運用に切り替え運用を行い、信託約款に定める信託終了の日を迎えましたので、満期償還となりました。

これまでの皆さまのご愛顧に対しまして、厚く御礼申し上げますとともに、今後とも弊社ファンドをご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。

<指定投資信託証券の概要>

ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド
ファンド形態	アイルランド籍外国証券投資法人（円建て）
投資目的	中長期的な値上がり益の最大化を目指します。
主な投資対象	主に、投資可能と判断される先進国の株式に投資します。その際、割安と判断する株式や時価総額の比較的小さい小型株により比重をおきます。
主な投資制限	①先進国の主要市場で取引されている先進国の株式を主要投資対象とします。 ②先進国で取引されている株式のうち、新興国の株式と判断される株式への投資割合は、原則として信託財産の資産総額の20%を超えないものとします。 ③リスク管理等を目的として、金融派生商品に投資することがあります。その際、為替予約取引および先物取引以外の金融派生商品の利用を目指すものではありません。また実質的な投資比率が資産総額の100%を超えるような取引は行いません。
投資顧問会社	ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド
決算日	毎年11月30日

<参考情報>

■損益計算書

(2016年11月30日から2017年11月30日まで)

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド

(米ドル)

収益	
受取利息	29,278
受取配当金	49,155,171
貸株収益	951,352
実現損益と評価損益の増減額	391,534,757
純収益	441,670,558
費用	
運用報酬	(6,279,759)
管理報酬および保管費用	(947,583)
監査費用および弁護士費用	(112,370)
その他費用	(182,288)
運営費用合計（費用免除前）	(7,522,000)
費用免除および払戻費用	-
運営費用合計（費用免除後）	(7,522,000)
純収益（金融費用控除前）	434,148,558
金融費用	
支払利息	(2,839)
金融費用合計	(2,839)
税引前純損益	434,145,719
配当源泉税およびその他税金	(9,176,082)
税引後純損益	424,969,637
期中純損益	424,969,637

(注1) () 内の金額はマイナスの金額です。

(注2) 上記内容は、ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンドのAnnual Reportから抜粋し、委託会社が翻訳したものです。

■保有有価証券明細 (2017年11月30日現在)

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド

銘柄名称	株数	評価額 (米ドル)	比率 (%)	国
Apple Inc	245,240	42,144,494	1.66	United States
Microsoft Corp	256,614	21,599,200	0.85	United States
Amazon.Com Inc	15,786	18,576,176	0.73	United States
Johnson & Johnson	107,298	14,949,830	0.59	United States
JPMorgan Chase & Co	140,497	14,684,746	0.58	United States
AT&T Inc	383,521	13,952,494	0.55	United States
Berkshire Hathaway Inc	71,725	13,843,642	0.54	United States
Exxon Mobil Corp	143,206	11,927,628	0.47	United States
Wells Fargo & Co	210,424	11,882,643	0.47	United States
Facebook Inc	66,433	11,770,599	0.46	United States
Intel Corp	260,337	11,673,511	0.46	United States
Comcast Corp	301,165	11,305,734	0.44	United States
UnitedHealth Group Inc	49,515	11,297,838	0.44	United States
Nestle SA	128,492	10,992,435	0.43	Switzerland
Bank of America Corp	372,525	10,494,029	0.41	United States
Alphabet Inc - Cl C	9,299	9,498,092	0.37	United States
Procter & Gamble Co/The	104,596	9,412,594	0.37	United States
Alphabet Inc - Cl A	8,856	9,176,322	0.36	United States
Verizon Communications Inc	176,553	8,984,782	0.35	United States
Walt Disney Co/The	83,914	8,795,865	0.35	United States
Pfizer Inc	237,914	8,626,762	0.34	United States
Toyota Motor Corp	135,906	8,581,860	0.34	Japan
Home Depot Inc	44,870	8,068,523	0.32	United States
Wal-Mart Stores Inc	82,323	8,004,265	0.31	United States
Novartis AG	87,873	7,539,208	0.30	Switzerland
Chevron Corp	62,097	7,388,922	0.29	United States
Citigroup Inc	97,571	7,366,611	0.29	United States
Cisco Systems Inc	195,253	7,282,937	0.29	United States
Amgen Inc	40,240	7,068,558	0.28	United States
Visa Inc	61,034	6,871,818	0.27	United States

※組入銘柄数が多いため、上位30銘柄を記載しております。

ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド
ファンド形態	アイルランド籍外国証券投資法人（円建て）
投資目的	投資元本の保全を目指しながら、金利収入獲得の最大化を目指します。
主な投資対象	主として国債、政府機関・国際機関債や投資適格の社債などの先進国の固定金利／変動金利中短期公社債（残存年限5年以内）に為替をヘッジした上で投資することで、為替レートの変動による影響を抑えつつ、安定した収益を目指します。
主な投資制限	①コマーシャル・ペーパーへの投資にあたっては、主要な格付機関においてPrime 1、A1またはF1以上の発行体に投資するものとします。 ②その他の公社債への投資にあたっては、主要な格付機関においてAa3またはAa-以上の発行体に投資するものとします。格付がないものについては、運用会社がこれらと同等以上と判断するものとします。 ③リスク管理等を目的として、金融派生商品に投資することがあります。その際、為替予約取引および先物取引以外の金融派生商品の利用を目指すものではありません。また実質的な投資比率が資産総額の100%を超えるような取引は行いません。
投資顧問会社	ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド
決算日	毎年11月30日

<参考情報>

■損益計算書

(2016年11月30日から2017年11月30日まで)

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド

	(ユーロ)
収益	
受取利息	36,822,792
受取配当金	-
貸株収益	4,691
実現損益と評価損益の増減額	(138,753,468)
純収益	<u>(101,925,985)</u>
費用	
運用報酬	(5,110,561)
管理報酬および保管費用	(764,801)
監査費用および弁護士費用	(91,136)
その他費用	(142,808)
運営費用合計（費用免除前）	<u>(6,109,306)</u>
費用免除および払戻費用	-
運営費用合計（費用免除後）	<u>(6,109,306)</u>
純収益（金融費用控除前）	<u>(108,035,291)</u>
金融費用	
支払利息	(177,791)
金融費用合計	<u>(177,791)</u>
税引前純損益	<u>(108,213,082)</u>
配当源泉税およびその他税金	5,791
税引後純損益	<u>(108,207,291)</u>
期中純損益	<u>(108,207,291)</u>

(注1) ()内の金額はマイナスの金額です。

(注2) 上記内容は、ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンドのAnnual Reportから抜粋し、委託会社が翻訳したものです。

■保有有価証券明細 (2017年11月30日現在)

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド

銘柄名称	利率	償還年月日	評価額 (米ドル)	構成比率 (%)
Republic Of Austria 0.00% 9/20/22	0.00%	2022/9/20	105,275,040	4.70
France (Govt Of) 0.00% 5/25/22	0.00%	2022/5/25	63,694,890	2.84
Swedish Government 3.50% 6/1/22	3.50%	2022/6/1	56,029,640	2.50
Oracle Corp 1.90% 9/15/21	1.90%	2021/9/15	50,913,934	2.27
Berkshire Hathway Inc 2.2% 3/15/21	2.20%	2021/3/15	45,328,707	2.02
Ge Capital Intl Funding 2.342% 11/15/20	2.34%	2020/11/15	41,441,577	1.85
Province Of Ontario 2.40% 2/8/22	2.40%	2022/2/8	39,890,120	1.78
Apple Inc 2.25% 2/23/21	2.25%	2021/2/23	39,125,202	1.75
Province Of Alberta 1.35% 9/1/21	1.35%	2021/9/1	37,174,692	1.66
Kfw 0.625% 7/4/22	0.63%	2022/7/4	32,475,534	1.45
Exxon Mobil Corporation 2.222% 3/1/21	2.22%	2021/3/1	32,392,638	1.45
Rabobank Nederland 2.5% 01/19/2021	2.50%	2021/1/19	31,320,852	1.40
Singapore Government 2.25% 6/1/21	2.25%	2021/6/1	31,138,223	1.39
Efsf 0.00% 11/17/22	0.00%	2022/11/17	29,689,302	1.33
Bank Of Nova Scotia 2.45% 3/22/21	2.45%	2021/3/22	28,463,153	1.27
Aust & Nz Banking Grp Ny 2.625% 11/9/22	2.63%	2022/11/9	28,282,439	1.26
Toronto Dominion Bank 2.125% 4/7/2021	2.13%	2021/4/7	27,721,401	1.24
Cppib Capital Inc 2.25% 1/25/22	2.25%	2022/1/25	27,212,472	1.22
Dexia Credit Local 0.875% 9/7/21	0.88%	2021/9/7	26,152,535	1.17
Westpac Banking Corp 2.80% 1/11/22	2.80%	2022/1/11	25,560,377	1.14
Quebec Province 4.25% 12/01/21	4.25%	2021/12/1	23,393,676	1.04
Toyota Motor Credit Corp 1.90% 4/8/21	1.90%	2021/4/8	23,171,994	1.03
Kommuninvest I Sverige 0.25% 6/1/22	0.25%	2022/6/1	21,888,572	0.98
Cisco Systems Inc 1.85% 9/20/21	1.85%	2021/9/20	21,651,014	0.97
Province Of Quebec 2.375% 1/31/22	2.38%	2022/1/31	21,409,212	0.96
Kommuninvest I Sverige 2.5% 12/1/20	2.50%	2020/12/1	20,923,613	0.93
Pfizer Inc 1.95% 06/03/2021	1.95%	2021/6/3	20,455,859	0.91
Royal Bank Of Canada 2.75% 2/1/22	2.75%	2022/2/1	20,348,030	0.91
Fms Wertmanagement 0.875% 2/14/22	0.88%	2022/2/14	19,779,940	0.88
Microsoft Corp 2.40% 2/6/22	2.40%	2022/2/6	19,345,554	0.86

※組入銘柄数が多いため、上位30銘柄を記載しております。